

第6小主題（生徒指導）

自他を敬愛し他者と協議しながら自己実現を図るための
自己指導力を育成する生徒指導の充実

【郡山支会テーマ】

一人一人の多様なウェルビーイングの向上を目指す

校長のマネジメント

郡山支会 発表者 郡山市立西田学園義務教育学校 星野亜希

郡山支会

1 研究の趣旨

自他を敬愛し他者と協働しながら
自己実現を図るための自己指導力の育成



- ・人格のよりよい形成と学校生活の充実の基盤
- ・組織的、継続的な支援・取組の充実
- ・家庭や地域及び関係機関、SCやSSWなどの専門スタッフ等との連携のより一層の充実

郡山支会

1 研究の趣旨

〈目指す郡山の子ども像〉

高い志を持って自立し、他と協働して未来を拓く子ども

〈基本方針〉

SDG s を郡山の子どもたちから

「誰一人取り残されない」教育の推進

～一人一人の多様なウェルビーイングの向上のために～

【令和7年度郡山市の学校教育推進構想より抜粋】

郡山支会

1 研究の趣旨

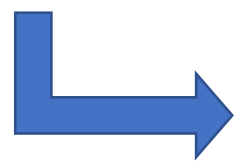
〈郡山市の教育課題〉

- ・ 学び方の変革・教え方の変革、教育DXの推進
- ・ 自他の生命（いのち）を大切にする指導の徹底
- ・ いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒への対応
- ・ 学齢児童生徒数の減少、学校規模の偏在化
- ・ 教職員の働き方改革の推進
- ・ 体力向上・肥満防止対策

郡山支会

2 研究の進め方 (1) 研究の方向

自己指導力を育成するために・・・



その時、その場でどのような行動が適切であるか
自分で考えて、自分で決めて、実行する能力

- ・ 自己存在感の感受
- ・ 共感的な人間関係の育成
- ・ 自己決定の場の提供
- ・ 安全・安心な風土の醸成

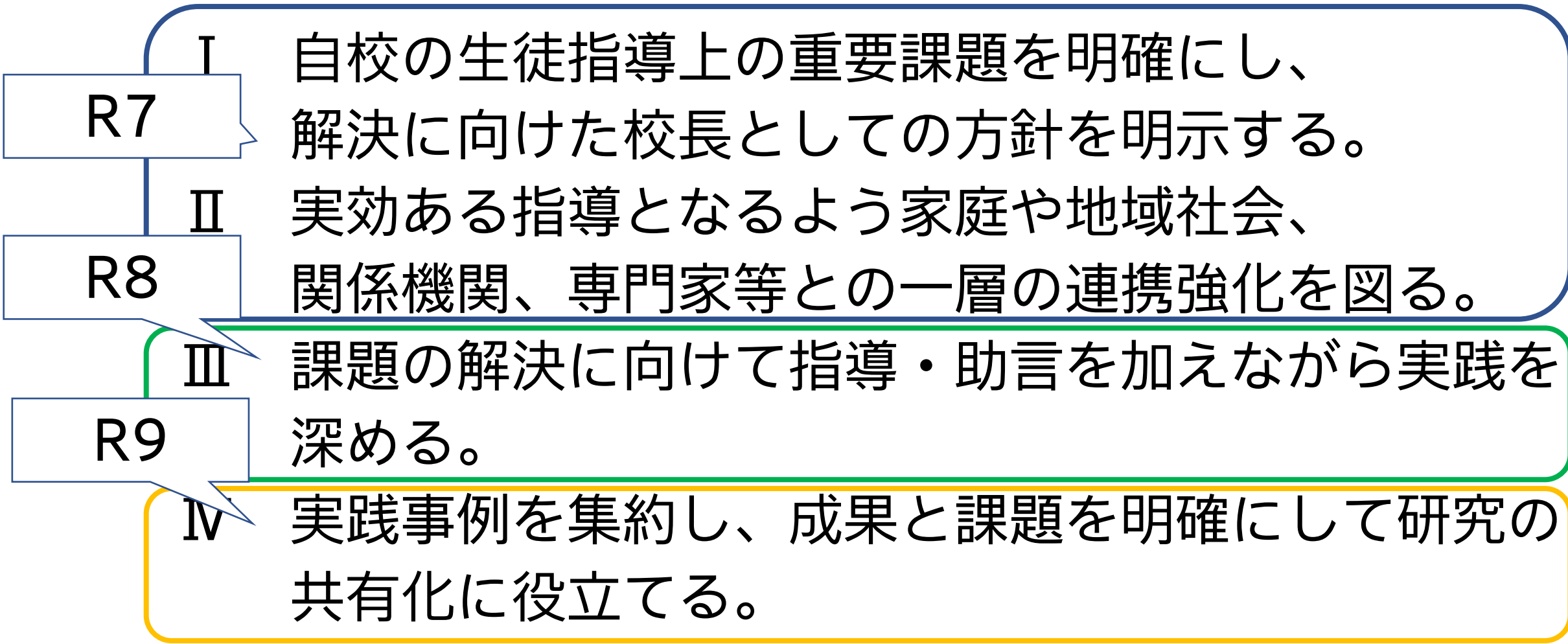
2 研究の進め方 (2) 研究の視点

【視点1】 自己指導能力を育成する学校教育の在り方

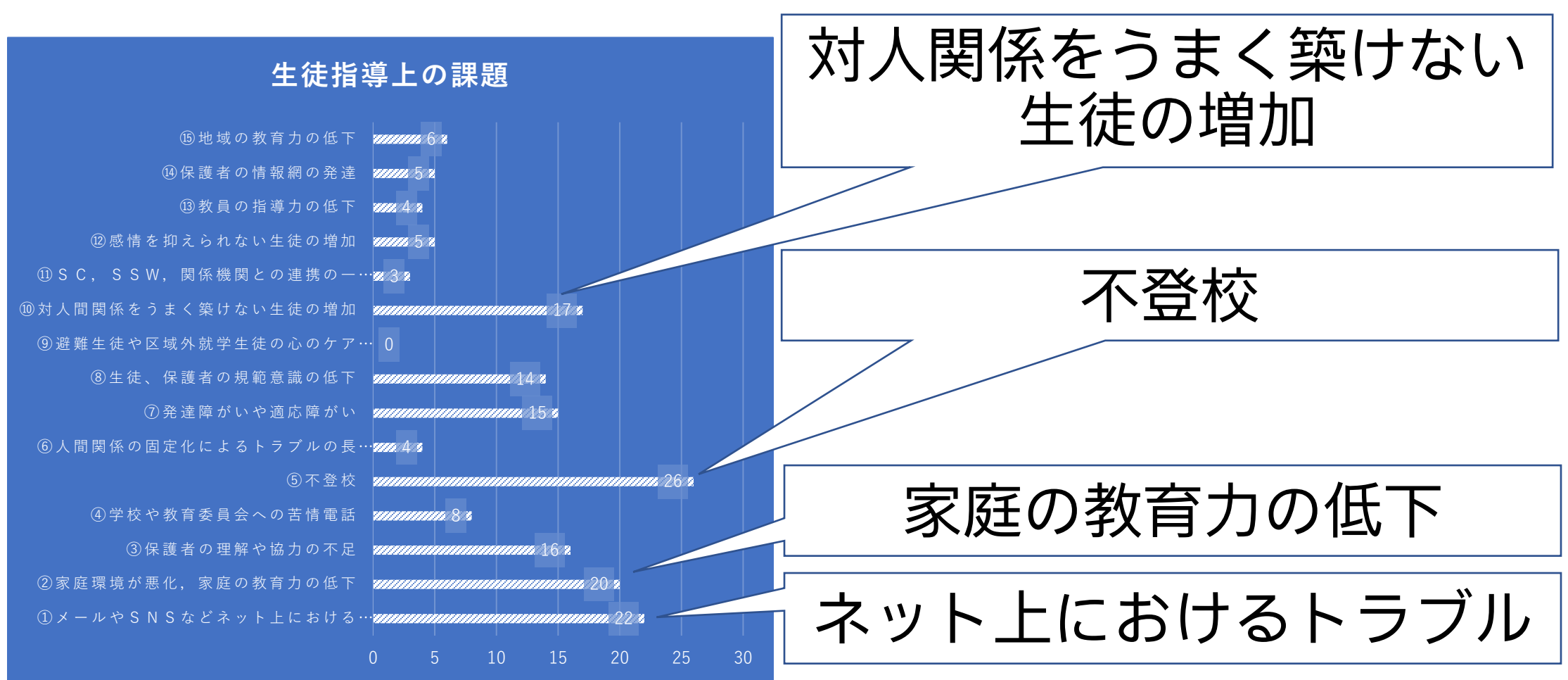
【視点2】 いじめ防止への対応や自殺防止
及び不登校生徒への支援の在り方

【視点3】 関係機関との連携・協力を密にした
生徒指導の推進

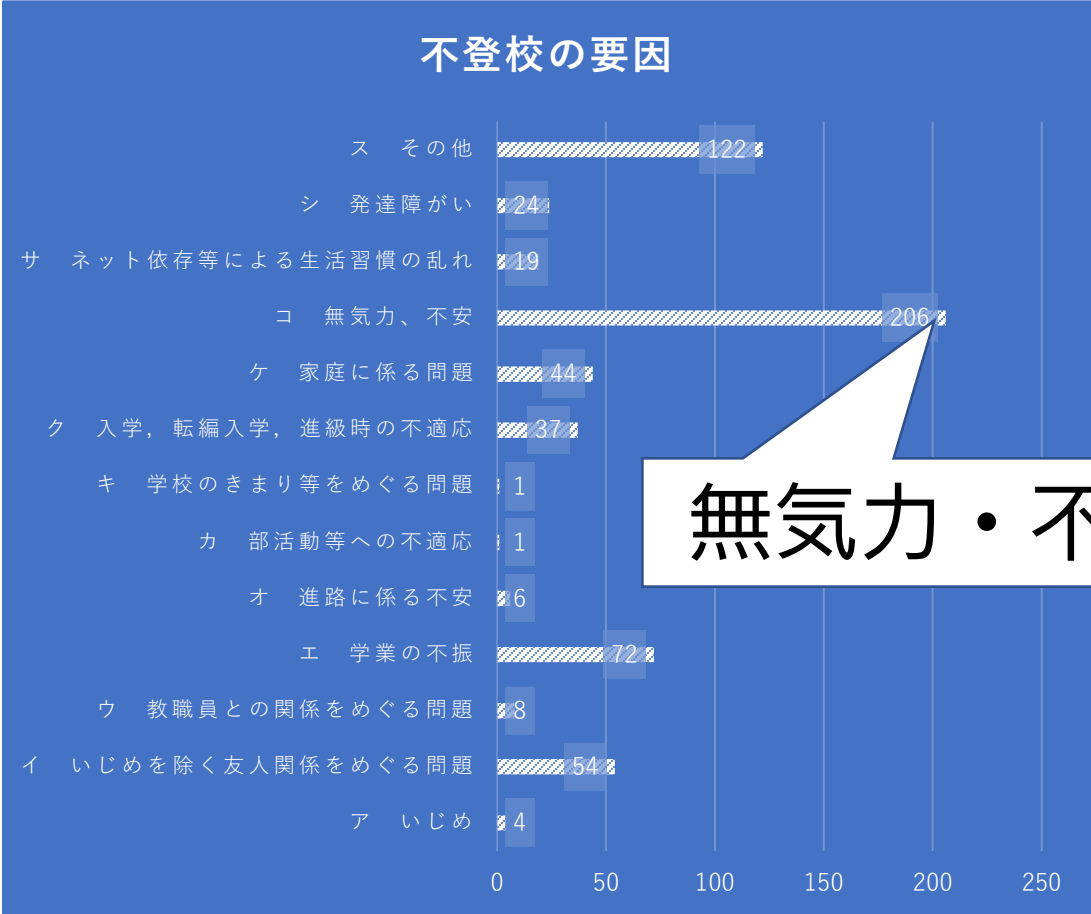
3 研究の方法と計画



4 研究の概要と考察 (1) 実態調査①



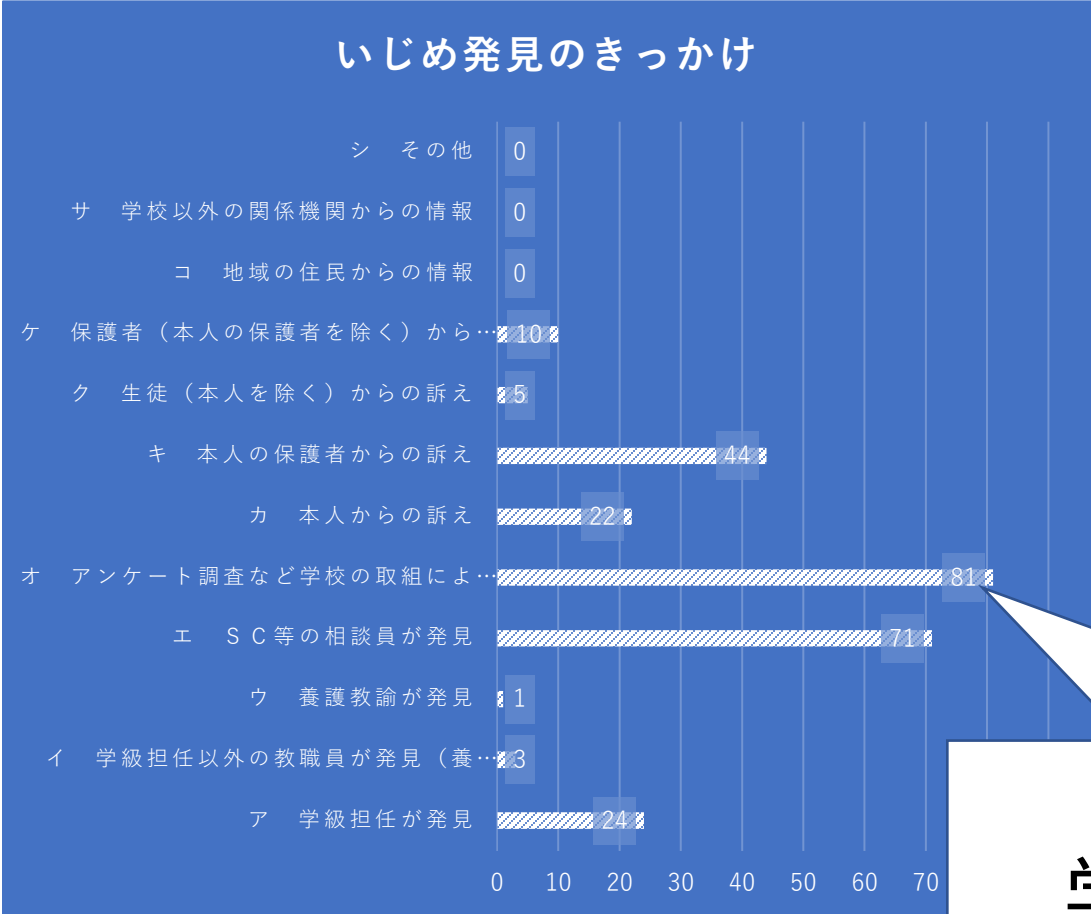
4 研究の概要と考察 (1) 実態調査②



〈相談・指導を受けた機関〉

- ・ 病院、診療所 22件
- ・ 教育支援センター 20件
(適応指導教室)
- ・ 児童相談所、福祉事務所 11件
- ・ 民間団体、民間施設 8件

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査③

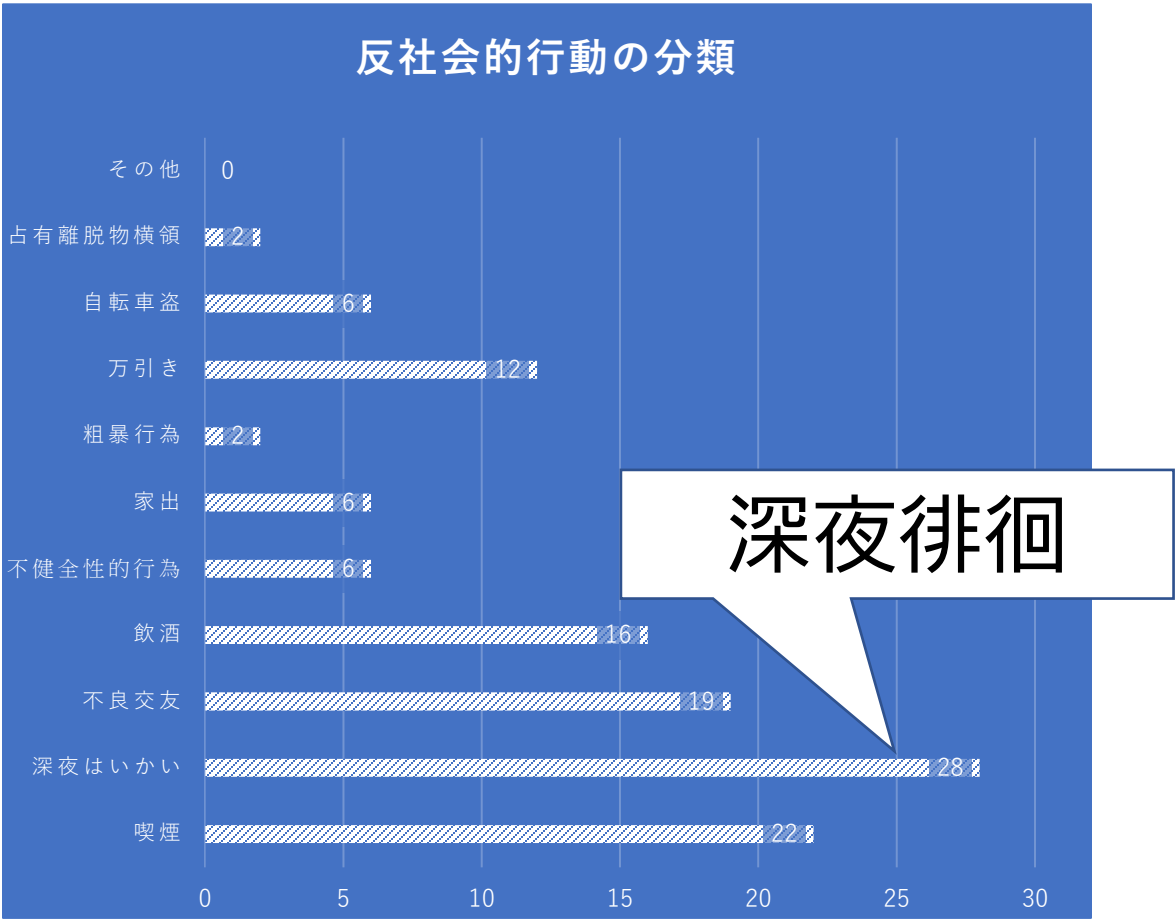


〈学校の取組〉

- ・ 定期的なアンケート調査
→ 管理職による確認
- ・ アンケート後の面談実施
- ・ SCによる全校生面談
- ・ SCとのコンサルテーション

アンケート調査など
学校の取組によるもの

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査④



〈学校の取組〉

- 学校警察連絡協議会の実施
- 地区交番連絡協議会の実施
- 地区PTA小中校サポートチーム
- 学校運営協議会との連携
- PTAとの連携

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 1

実践例 1

SWOT分析による自校課題の共通理解と共通実践

【視点 1】

- ① 自校の実態を把握するためのSOWT分析の実施
- ② 課題解決に向けた戦略図の作成と全職員での共通実践
- ③ 公民館、自治会、小学校との連携

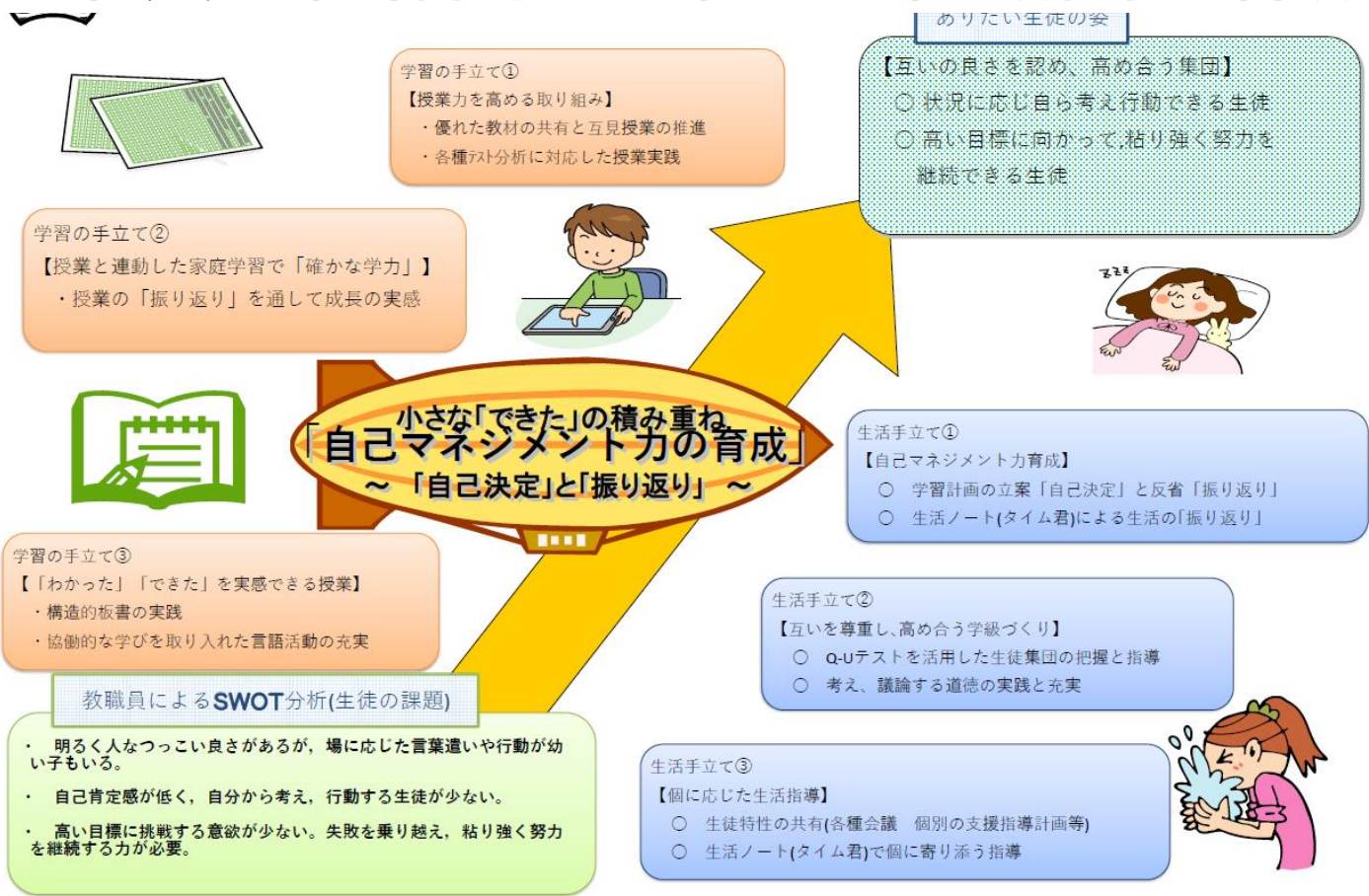
4 研究の概要と考察 （2） 研究実践 1

① 自校の実態を把握するためのSWOT分析の実施

	プラス要因(伸ばしたい良さ, メリット)	マイナス要因(改善を要する課題, デメリット)
内部環境 ・保護者・施設 ・他	Strength 生徒 ・素直でまじめ・礼儀正しく一生懸命 ・協力的・堅実さ ・一人一人に活躍の場 ・男女学年問わず仲が良い ・部活に積極的に参加・縦割り活動が良く機能 ・明るい・あいさつが丁寧・物を大事に使う ・自ら考えて行動する姿がある・積極的な発言 ・奉仕的精神がある・伝統を受け継ごうとする意識 ・規律, 秩序を守ろうとする意識 保護者 ・学校に協力的な保護者が多い ・学校を信頼している 教職員 ・経験豊かな教職員 施設 ・人数に対し十分なスペースや数 ・コロナ禍でも密にならず学習できる ・自然豊か, 緑が多い	Weakness 生徒 ・視野や体験が狭くなりがち・貪欲さ ・競争心が弱い・困難なことへの挑戦心 ・創意工夫が苦手・投稿渋り, 不登校 ・人数が少なく団体戦への出場が困難 ・外部交流の少なさ, 大舞台で緊張 ・自分たちの考えに固執し新たな考えに触れる機会が少ない ・宿題やノート等の忘れが見られる ・指示待ちの面も 保護者 ・複雑な家庭環境の家がある(連携困難な面も) ・教育に関心が薄い保護者も 教職員 ・年齢構成のアンバランス 施設 ・練習試合等になると不足する設備(卓球台) ・空き教室の有効活用 ・予算が少なく買換えができず古い物品が多い
	Opportunity 地域 ・地域交流による風通しの良さ ・こどもたちの活躍の場が多い ・学校に理解があり協力的 ・地域の良さや伝統を守っていこうとする風土 ・地域行事と授業の結びつき(秋蛸、海老根和紙) ・和菓子作りなどの体験に協力的 ・豊富な地域資料 ・学校への信頼をもっている 市 ・美術館, スポーツパーク, 大安場古墳等学習施設が多い ・教職員研修が充実	Threat 地域 ・生徒、保護者とも承認図による役割過多 ・生徒数の減少(学校統廃合の流れか) ・道幅が狭く交通事故の心配 ・学区内に大きな道路と河川がある ・野生動物(イノシシ, マジ等)注意 ・急斜面が多く土砂崩れの心配 市 ・各種調査の多さ ・出張や悉皆研修の多さ ・大規模校と小規模校, 一律の対応

4 研究の概要と考察 （2） 研究実践 1

② 令和7年度生徒指導に関する戦略図の作成



4 研究の概要と考察 （2） 研究実践 1

③ 公民館、自治会、小学校との連携

「家庭の教育力」を補う取り組みとして、小中学校や地区でも、取り組みを提案

〒963-8713 福島県郡山市横塚六丁目25番地31号
電話：024-944-1692
FAX：024-944-3610
お子さんについてご心配なことがありましたら、お気軽にご相談ください。

<p>欠席・遅刻・見学・早退</p> <p>保護者の連絡や送迎が必要です</p> <p>○欠席・遅刻は、保護者から、8時までに733-4でお願いします。 ○遅刻や早退や体育の見学等につきましても原則保護者から連絡をお願いします。 ○遅刻・早退は原則、保護者の送迎をお願いします。事故防止のため、保護者以外が迎えに来る場合はその旨をお知らせ下さい。</p>	<p>登下校・帰宅</p> <p>登校 7:45～8:10 ○交通事故には十分注意し、時間余裕を持って登校しましょう。 朝の運動は7:30から練習がスタートします。</p> <p>下校 大会前等、保護者承諾を得て部活動延長も可能 ○18:40(4～9月) 18:10(10、3月) 17:50(11～2月)</p>	<p>週に1日マネジメントデー</p> <p>メディアコントロール & 読書推進</p> <p>○ゲームや動画の視聴等、自分でルールを決め、実行します。 例)スマホやゲームの時間に読書食事の時間はテレビを消す家族の読書タイムを30分動画の視聴を我慢する、など ○テレビやゲームの時間を読書に充てるなど、積極的に読書に取り組みましょう。</p>	<p>持ち物</p> <p>通学かばん、ハンカチ、ティッシュ、教科書、生活の記録(タイムくん)、筆記用具、下敷き、学習用具 学校のタブレット 部活動用具 ※電話代10円 雨具 防寒着 弁当 ※ スマホは持ってこない。家庭のやむをえない事情は担任に相談。学校の電話を10円で使用出来ます。</p>	<p>服装等</p> <p>○登下校は制服を着用。必要に応じて防寒着。 ○マスクの着用は自由です。 ○通学靴の形や色の指定はありません。体育の授業でも使用しますので運動に適したものを。 ○体操着にはゼッケンを着用。 ※厳寒時の長袖、長ズボンの下に着るものは各自で準備。 ○授業の支障にならないよう髪が長い場合はゴムで結びます。 ○パーマや染髪、整髪料は禁止しています。</p>	<p>部活動</p> <p>○野球、サッカー(バスケットボール、剣道、柔術、吹奏楽(男女)) ○バドミントン、卓球(男) ○バドミントン、ソフトテニス(女) ○特設陸上部(男女)(審判可能) □バレー、ソフトボール、科学、陸上 ・部活動への参加は自由です。 ・部活動(週に1回は地域入部)と連携し活動をお願いします。 ・バレー、ソフトボール、科学はR7より1年生の募集停止。 ・人数が足りない部は他校と合同で大会参加となります。 ・部員数が少なく大会出場や日々の練習に支障を来す部活動は段階的に整理、再編成致します。</p>	
<p>読書&学習</p> <p>時間→8:10～8:20</p> <p>・毎朝、読書をします ※良書との出会いで感性を磨きましょう ※週に1度は読書推進デーとなります。 ・テスト前の期間は学習タイムとなります。 ※自分で学習計画を立て、目標達成のため実行する力をつけるのがねらいです。</p>	<p>タブレット端末持ち帰り</p> <p>家庭学習への利用</p> <p>○Wi-Fi環境があれば家庭でもタブレット端末の活用ができます。 ○届けを出さず持ち帰ることも出来ます(授業でも使用しますので忘れずに持参しましょう)。 ○長期休業中は全員が持ち帰り課題の提出や教科の指示に対応します。</p>	<p>提出物について</p> <p>○自主学習、生活の記録(タイムくん)は毎日提出します。 ○係の生徒が集めますので登校後忘れずに提出しましょう。 ○アンケートや調査などご家庭で記入いただく場合もございますのでご理解とご協力をよろしくお願いします。 ○課題等、提出期日に間に合うよう計画的に取り組みしましょう。</p>	<p>学習用具</p> <p>○シャープペン、鉛筆(HBなど) ○15cm位の定規 ○消しゴム ○下敷き ○学校のタブレット端末 ○学習ノート(指定はありません) ○筆記用具 ○プリントを閉じるファイルを配付します(諸会費で集金済み) ○その他、三角定規、分度器、はさみ、のり、色鉛筆等、教科で指示のあった道具。</p>	<p>図書館の利用</p> <p>利用時間(8:00-8:15 昼休放課後) 貸出冊数(月～木1冊、金3冊) ○木、金は図書館司書が勤務。それ以外の日は係の生徒が貸出。 ○新刊や季節の本など、良書に積極的に触れましょう。 ○朝の読書タイムの他、週に1度の読書推進デーを中心に、空き時間読書にも取り組みましょう！</p>	<p>その他のお知らせ</p> <p>けがをして病院に行ったら</p> <p>○登校から下校までのけがは「日本スポーツ振興センター」の保険の対象となります。 ○学校以外のけがは「PTA共済金」の対象になることがあります。 ※けがをして病院にかかったときは担任に連絡願います。手続きに必要な書類をお返しします。</p>	<p>スクールカウンセラー(SC)</p> <p>○生徒はもちろん、保護者もお子さんの成長についてお気軽にご相談できます。 ○カウンセリングの開始時刻 11:30～15:30 ※原則、週に1日の勤務。出勤日の確認は、担任または学校にお電話ください。 ※予約制をとっていますが、緊急で相談したい場合等、対応致しますのでご相談ください。</p>

日課表

7:45	8:10	8:20	8:30	8:35	9:25	9:35	10:25	10:40	11:30	11:40	12:30	13:10	13:35	14:25	14:35	15:25	15:30	15:45	15:50	16:00
登校	朝読書	学活	1校時	2校時	3校時	4校時	給食	5校時	6校時	清掃	学活	下校	部活動							

短縮日時は下校が30分早まります。

授業や生活の様子をHPにて随時公開致します。

4 研究の概要と考察 （2） 研究実践 1

実践例 1 の成果及び課題【視点 1 より】

- SWOT分析を通して、教職員一人一人が自校の課題について主体的に考えることができた。
- ボトムアップとトップダウンのバランスが取れた実践になった。
- 「小さなできた」を積み重ねるマネジメントデーの定着と各種団体との協働に向け、更なる働きかけと提案を継続している。

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践2

実践例2 教育目標具現化に向けた7つの力の習得

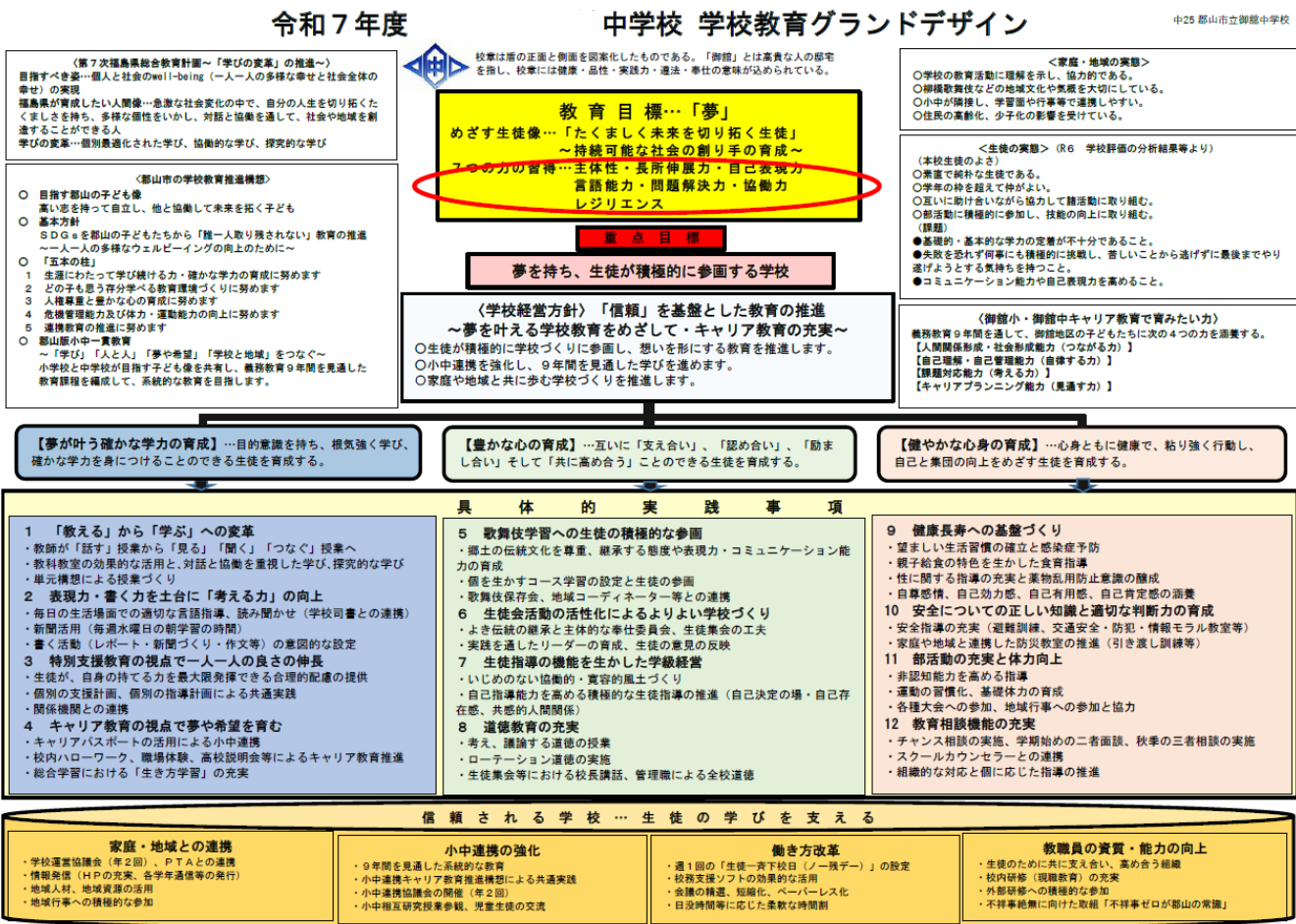
【視点1】

- ① 7つの力の決定
- ② 人事評価への設定
- ③ 人権擁護委員による人権教室の実施
- ④ 道徳の授業の充実と学級力アンケート

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践2

① 7つの力の決定

- ・主体性
- ・長所伸展力
- ・自己表現力
- ・言語能力
- ・問題解決力
- ・協働力
- ・レジリエンス



4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

② 人事評価目標への設定

- ・ 教職員人事評価制度を活用し、人事評価シートの自己目標と手だてに「7つの力」のうち、**どの力をどの場面で習得させたいのか**を教職員一人一人が位置付ける



教職員が7つの力の習得に向け同じ方向で取り組む

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

③ 人権教室の実施



④ 道徳の授業の充実と学級力アンケート



4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

実践例 2 の成果及び課題【視点 1 より】

- 年度当初に、校長が自ら道德の授業を実践したこと、人事評価の自己目標に 7 つの力を位置付けさせ、取組について対話を重ねたことで、今年度目指す方向性を共有することができた。
- 7 つの力は目に見えにくいものであり、変容について考察するためには工夫が必要である。

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

実践例 3

「組織的アプローチ」による不登校支援体制の構築
 ～自己決定を重視した不登校支援の実際～【視点 2・3】

- ① 全職員を対象とした研修会の企画・実施
- ② 不登校生徒への対応指針の策定と共有
- ③ サポートルーム委員会の体制整備
- ④ 行政機関や外部支援機関との連携体制の強化

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

- ① 全職員を対象とした研修会の企画・実施
- ② 不登校生徒への対応指針の策定と共有
 - ・ 調理実習などの体験的活動から参加を促す
→登校への心理的抵抗感を段階的に緩和
 - ・ ICT環境を整備し、各教科の授業についてもオンライン配信を実施する体制を構築
→自宅にいたながらも学習に参加できる機会を提供

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

- ③ スペシャルサポートルームの企画・実施

- ・ 生徒の居場所としての機能重視
- ・ 「自己決定」を促す
- ・ 個人ブースの設置
- ・ 生活支援員 1 名を常駐
- ・ 校長の考えを支援員と共有



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

④ 行政機関や外部支援機関との連携強化

〈SSR運営委員会〉

- | | |
|----------------|------------|
| ・ 管理職 | ・ 担任 |
| ・ 生徒指導主事 | ・ 養護教諭 |
| ・ 特別支援コーディネーター | ・ SC |
| ・ SSW | ・ 行政の福祉担当者 |

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

実践例 3 の成果及び課題【視点 2, 3 より】

- 多職種によるケース会議の定例化により、教職員間の情報共有が充実するとともに、関係機関との連携も強化。
- 自己決定を経験する中で、自分から教室で過ごすことを望むようになる。
- 教職員の負担軽減と役割分担の最適化、外部資源の効果的活用などの工夫が必要

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

実践例 4

誰一人取り残さないための生徒指導の充実

～校外協力体制の整備と関係機関との連携～ 【視点2・3】

- ① 校内支援体制の構築と組織的な支援
- ② 小中連携の推進
- ③ コミュニティースクールとしての地域資源の活用

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

- ① 校内支援体制の構築と組織的な支援
 - ・ 校内教職員を繋ぐことに重点を置き、ミドルリーダーを生かす
 - ・ 情報の一元化による問題の早期発見と組織的対応
 - ・ 定期的なケース会議の実施と支援計画のデータベース化
 - ・ 学年、養護教諭、SCとの連携のもと、きめ細かなチーム支援を行い、自己肯定感、自己有用感を育む教育活動を実践

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

② 小中連携の推進

- 小中連絡協議会での、教育活動の実施状況や児童生徒に係る情報等の共有



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

③ コミュニティースクールとしての地域資源の活用

- 学校運営協議会の活性化と地域の教育力を生かした学校経営の推進
- 警察や各種連絡協議会等、地域の既存の組織を生かした生徒の安全確保の徹底



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

実践例 4 の成果及び課題【視点 2, 3 より】

- 定期的なケース会議の実施と支援計画のベース化
- 情報の一元化による総合的な判断
- 学校運営協議会において不登校傾向の状況を共有し、地域住民からの助言をもとに学校運営に生かす
- 校長の発言の重さを校長自身が自覚し、トップダウンとならないように意識していく

5 研究・実践のまとめ①

◎ 学校経営ビジョンと学校課題をリンクさせること

- 管理職の経営理念や思い、考えを教職員に伝えるとともに、実態把握のための方法や日々の実践と課題解決の手だて等具体的な方向性を示したことで、学校全体が同じ方向を向いて学校経営を進めることが確認できた。そして、教職員の参画意識の高まりがみられ、一体感のある学校づくりにつながった。

5 研究・実践のまとめ②

◎ 課題解決に向けて人事評価制度を活用すること

- 教育目標の具現化に向け、教職員自らが課題解決への自己目標を明確にすることができるとともに自らの強みや弱み等を知る機会となり、自発的な能力開発を促すことにもつながっていくことが確認できた。

5 研究・実践のまとめ③

◎ 具体的な助言や働きかけをすること

- 傾聴と共感を重視した対話型面談を通して教職員の現状や思いを把握することができた。また、校長が「教職員を繋ぐ」という意識をもつことで、教職員の人材育成と教職員の学校運営に積極的に参加する取組に繋がっていくことが確認できた。

5 研究・実践のまとめ④

◎ 校内外の関係機関との連携を図り、様々な視点から学校経営を振り返ること

→ 地域人材の学校運営参画を促したり、専門職による指導助言を受けたり、多職種連携体制を強化することで、生徒の安全・安心の確保など生徒を多角的に支援していくことができることが確認できた。

5 研究・実践のまとめ⑤

〈課題〉

- ☐ 「ゆとり」を生む「働き方改革」の推進
- ☐ 学校アンケートの項目等の見直しによる取組の成果や生徒の変容把握
- ☐ 人的・物的整備により持続可能性を高めていくこと

おわりに

- ◎ 支援型リーダーシップ
- ◎ 参画型マネジメント
- ◎ 教職員とともに歩む学校経営



ご清聴 ありがとうございました